

2019年
9月号
付録



原水協通信

福島県版
原水爆禁止福島県協議会
〒960-8103
福島市舟場町 3-26
青年会館内
TEL/Fax 024-522-6519

2020年へ向かって大きくジャンプ！
“原水爆禁止世界大会 in ニューヨーク”の成功を！

原水爆禁止 2019年世界大会（長崎）



福島県代表団 33名が参加 (8/9 会場前)

8月7日～9日に開催された、原水爆禁止 2019年世界大会（長崎）には、県内から33名が参加。

8月6日は、台風8号が九州を通過したため、羽田からの飛行機の出発が心配されましたが、午後の便からは予定通りのフライトとなり無事長崎へ。長崎の美しい夜景をみながら和やかな夕食交流会となりました。

7日午前中は、「長崎の証言の会」の森口貢さんにガイドをお願いしての「碑めぐり」。爆心地公園→平和公園→如己堂→浦上天堂→原爆資料館と、暑い長崎の坂道を歩きました。午後3時30分からは、眼鏡橋近くの長崎市民会館体育館で開会総会。田上富久長崎市長から「核兵器禁止のために一緒に運動を」と熱い連帯のごあいさつをいただきました。

8日は13の分科会と特別集会に分かれての参加。夕方の「女性のつどい」には福島から参加の佐藤恭子さんが、震災と原発事故当時の様子、8年間の思いを世界各国から集まった女性たちに訴えました。

9日の閉会総会には全国、海外から5000人が集まりました。海外からはたくさんの青年が参加し、医師のイ・ボラさん（韓国）は「日本は正しい歴史認識を」と訴えました。徴用や強制労働などで日本に連れてこられた韓国の人は約10万人。そのうち5万人が原爆で亡くなっています。ベトナムの青年は、「若い世代の平和教育が大切」と訴えました。福岡空港に向かうバスの中では、参加者一人一人からマイクをまわして感想をお聞きしました。「碑めぐりのガイドの方が、学校での人権教育の不十分さを指摘されていた。教育は学校だけじゃない、大人のかかわり方も大切」「参加した高校生たちが、自分の意見をしっかり持っていることに感激」「小さい国々も核廃絶に向かって頑張っている」「同じ思いで世界から集まっていることに感動」などたくさん感想が寄せられました。



◆8月の6・9行動 —いわき市原水協—

いわき市原水協は、8月8日（木）14:00～15:00 平駅前イトーヨーカドー前で宣伝と署名行動を行いました。参加者は24人で177筆が寄せられました。小学生、中学生、高校生には、広島、長崎の話をして署名を集めました。

この日は、いわき七夕祭りの最終日。「いわきおどり」に多くの見物客が集まる駅前での宣伝は大成功でした。「今こそ核兵器廃絶を」の大きな文字が目を引きました。



東北ブロック原水協学校 in 秋田へ！

とき:10月5日（土）13:30～17:30

18:30～夕食交流会（予定）

講師:土田 弥生さん（日本原水協事務局次長）

2020年に向けた取り組み、被爆証言継承

会場:秋田市アトリオン 7階研修室

参加費:資料代

※10月6日は各県事務局長会議となります。

10月5日宿泊希望の方はご連絡下さい。

参加ご希望の方は福島県原水協（024-522-6519）まで

◆知は力 書籍紹介◆

「科学的特性マップ」を考える会 著 ブックレット **¥100**

「高レベル放射性廃棄物」はふやさない、埋めない！

—「科学的特性マップ」の問題点—

「核のゴミ」の処理を急ぐ日本政府は、2017年に資源エネルギー庁から、核のゴミの地層処分について「好ましい地域」「好ましくない地域」を区分した地図（科学的特性マップ）を公表。この見解に疑問を持った地質学の研究者は「科学的特性マップを考える会」を立ち上げ、ブックレットにまとめました。

県内の「被爆者国際署名」は 58,687 筆

2016年からスタートした2020年の秋の国連総会まであと1年となりました。皆さんのさらなるご協力をお願いいたします。